

かもまるくん
ですっ。



加賀市標章

ブログ更新中 見てね！

やすらぎ加賀通信

第107号 2016/2/5

寒中お見舞い申し上げます。びっくりぽんの暖冬でした。やっと冬らしくなりましたがもう節分です。やすらぎ加賀教室には現在3人の通室生がいます。2人は学校へ通っているようです。他に来室相談のU-20が面接練習などを経て、目標を持ち、元気で働いているようです。2月、3月になると進路を考える時期になりますね。そんな相談も増えそうな気がします。

サッカー男子がリオ五輪出場を決めましたね！振るわなかった選手たちがリベンジを誓い、這い上がる力を見せてもらいました。若者たちあきらめないで。「あさは来る」！

土田先生（心理カウンセラー）の相談予定日

2月19日（金）、26日（金）

3月 4日（金）

時間：9:30～11:30

場所：やすらぎ加賀教室

※相談ご希望の方は予約をお願いします。



	来室相談	訪問相談	電話相談	合計	通室生徒
12月	5	9	5	19	3
1月	5	11	6	22	3

※土田先生による学校訪問相談は市内3高校で実施しました。

第4回 事例検討会から 1月22日（金）15:30～ 加賀市青少年育成センター 参加15名

市内通学のAさんの事例でした。小学校からいじめに遭い教師に対して不満を強くもっている。担任面談中に奇異な発言があり、やすらぎ加賀教室のスーパーバイザーが学校訪問相談を要請される。

PCAGIP法による検討会で、こじんまりとした雰囲気の中で行われました。

- ・心理カウンセラーの専門的な意見について
- ・Aさんの発言についての両親の対応
- ・Aさんの発信状況や深層心理について 等



活発な質問や意見交換が行われ、「抑圧されていることや緊張した学校生活がうかがえる。明るい話題の提供や友達づくりを意識的にしてはどうか。」「相談室でどどん話を聞き、発散させてやるのは支援方法として有効である。」とのヒントや方向性が与えられました。

事例提供者からは「新鮮な意見をもらい有意義だった。相談室で話すことが支援になっていることをあらためて確認できた。」と謝意がありました。

また、原田先生より「難しい事例である。必要があれば受診も考えてみるのも良い。」との助言を頂きました。

最後に今年度1年間の事例検討会運営について、副室長よりお礼が述べられ今年度の事例検討会が終了しました。

学生さんありがとう

1月の活動

加賀フレンドシップの活動は、11月から約8回実施され、派遣した学校で高い評価を受けました。

学生さんのコメントを載せます。

- ・ 個性豊かな子ども達ばかりで、楽しい体験や、考えさせられる経験が出来ました。
- ・ 普段出来ない体験をすることが出来ました。
- ・ 子ども達の出会いの中で、元気をもらいました。
- ・ 一緒にいてくれる存在や安心出来る居場所を作る大切さを感じました。
- ・ 子ども達に接する距離感に悩みました。
- ・ 悩みを打ち明けられたとき信頼されていると感じました。

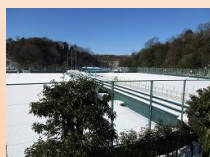
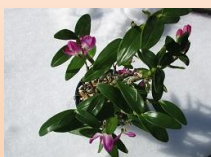
中には似顔絵をもらった学生さんもいました。 皆さんありがとうございました。



反省会

教室の様子

暖冬が幸いし、ひんぱんに自転車で通ってくれたゲストがいました。公園の散歩、卓球、将棋そして就職にむけての模擬面接が日課でした。無事面接もクリアし、アルバイトに励んでいるようです。たまに顔を出してお土産を持ってきてくれますが嬉しい心遣いです。お餅は焼いて食べました。口下手、ため口等社会が鍛えてくれるものと信じております。 前へ歩め！



青空が見えてきたぞ！

やすらぎ教室この5年

スーパーバイザーの土田晶子先生、金沢大学の原田克巳先生はじめ、真に地域の方々の深いご理解、多忙な中でのご協力により教室活動を継続できたと思います。感謝申し上げます。加賀教室としては本市が掲げる、幼保・小・中・高校と切れ目のない地域の見守りという視点からも、県・市あげて、教育支援センターの意義を改めて認知していただき、どうしても学校に行けない児童生徒の最後の砦として、ピンチに立つ子どもたちが自力で飛び上がるまでの居場所として、継続してほしいと願わずにはおれません。

最後に、『「不登校の児童生徒にとって居心地のいい学校」は「すべての児童生徒にとっても居心地のいい学校』(生徒指導提要)、「大変な子どもをより手厚く面倒をみるというのが先生の考える平等」(学芸大 小林正幸氏)がいじめ被害や不登校を考える上で印象に残った言葉として引用しておきたいと思います。

指導員